



恵迪寮生の抵抗

- 寮の行事に際して行われる仮装パレード、部屋デコ（部屋デコレーション、各部屋の研究発表展示）、演劇などで時局の風刺や世相の批判を繰り返した。
- 寮歌に自治と自由の伝統を歌い込んだ。
- 検閲が厳しくなると、「自治」と「自由」という言葉を使わず、「鐘の音」「伝統」「歴史」等とした。寮生が読めば自由と自治の伝統と歴史であることが分かる。
- 予科生達は軍事教練にも素直には従わなかった。長髪をとがめられても抵抗し、羽織袴、下駄履き、腰手拭の蛮カラスタイルで整列し、下駄履きでゲートルを巻き、とがめられると「貧乏で靴が買えません」とうそぶいたり、「きをつけ、やすめ」の号令をくり返すと、「そんなに頻繁に言われたらやすめません。」とヤジったりもした。教練が終わると軍事教練用の菊の紋章の付いた銃を野原に放り出して帰り、小使いが拾い集めると言った有様であった。



昭和二十年八月十五日 大東亜戦争此ここに終戦す。
(北海道帝国大学予科一年細野順三氏日記一部)

- 畏くも大詔宣（の）さる、昭和十六年十二月八日開戦以来、激闘四年有半 遂に敗る！國敗れて山河あり！今静かに静かに過ぎし途を顧みるに、忌まわしき思ひ胸中に往来するのみ。噫！悪夢よ去れ、長き悪夢よ！永へに去れ！そして再び平和を愛する日本人の上に訪れる勿れ！悪夢より覺めた人々よ 躊躇する勿れ！正々堂々と本来の道を歩むべし。（中略）
- ミリタリズムは亡びだ。再び“日本人にはミリタリズムでなければ駄目だ”の如き不実な言は避けしめやう。そして何故敗れたか、何が破れしめたか、考究して見やう。覺めたる大和民族の目覺める第一歩だ！（中略）「數百年間暗雲の如くアジアの國民を包藏せし、門地と習慣との虐政を斯くの如く奇異に脱し得たる事は將來教育を受くる學生諸子の胸中に自ら崇高なる大志を喚起するに至るべし。青年諸子、紳士！希くは皆諸子の最も誠実有力なる勤務を大に要望する所の母國に於て勤勞と信任と又、それより生ずる榮譽の最高位置に適さんことを勉めよ。健康を保持し情慾を制し、従順と勉強の習慣を養て時機の学ぶべきに遇はづ、學術の何たるを諭ぜず、力の及ばん限りは其の智識と妙巧とを求めよ！斯の如くして而して諸子は能く重要の地位に適すと謂ふべし」 —クラーク先生 開校演説より—

- 昭和20年入寮の1年生（17、8歳）にして、国のプロパガンダに少しも染まっていない。
- 入寮数ヶ月にして、クラーク博士の開校式辞を知っていた。先輩からの伝えであろう。
- ここでこの時、クラーク博士の演説のこの部分を引き合いに出すと言うことは、「崇高なる大志」＝「貴き野心の訓え」、即ち「うるわしきまことに道」に従って進もうと言う決意の表れであろう。

- 昭和20年寮歌「命の旅路」の作曲者・新井忠雄氏：「当時もクラーク博士の思想は北大には脈々と受け継がれていた。これは特筆すべきことである。」
- 昭和21年寮歌「時潮の波の」作曲者・寺井幸夫氏：「戦争の只中にあっても、当時の予科にはまだ自由の気が溢れ、先生の中にも先輩の中にも個性ある人が多く、考え方も大変純粹であった。我々はよく本を読み、議論を戦わせ、先人のことを偲びつつ よく寮歌を歌ったものだ」

寮歌に歌われた自由と自治 寮生の意識の変遷

8年区分	自由	自治	鐘	伝統・歴史	
1907-1914 (M40-T3)	0	0	0	0	前半は世界に目を向けた気宇壮大な表現、「都」以降は北海道の自然
1915-1922 (T4-T11)	7	4	1	0	大正デモクラシー
1923-1930 (T12-S5)	2	2	3	0	治安維持法 (1925)
1931-1938 (S6-S13)	3	6	6	4	寮移設 北大文武会事件 (31) 五一五事件 (32年) 二二六事件 (36年)
1939-1946 (S14-S21)	1 _(45年)	0	2	4	自治の中断 パールハーバー (日米開戦41年) 敗戦 (45年)
1947-1954 (S22-S29)	2	2	1	1	戦後民主主義
1955-1962 (S30-S37)	1	1	0	0	60年安保
1963-1970 (S38-S45)	0	4	0	2	寮建て替え検討 負担区分
1971-1978 (S46-S53)	0	0	1	0	70年安保 学園紛争
1979-1986 (S54-S61)	0	5	0	0	新新寮
1987-1993 (S62-H5)	0	0	0	0	
1994-2001 (H5-H12)	0	0	0	0	自治意識低迷の時代へ

- 戦時の弾圧や、寮の移設・再建のたびに自治の縮小を狙う大学側あるいは国策に対し、必死で自治を守ってきた寮生の意識を伺うことができる。

恵迪寮寮歌の特徴

- 恵迪寮寮歌の自然讃歌はあたかも一つの思想のようである。自然が寮歌を育み、寮歌が人を育てる。寮歌は共感だから。自然に対する優しい視線は優しい感性を育てる。エリート意識のスローガンみたいな歌を毎日歌えば、そういう人間ができる。
- 恵迪寮寮歌ほぼ全てに共通するのが大自然の描写・賛美、自然との一体感、寂しさ、友情の喜び。
- 孤高を誇ることはない。ネガティブと考えるものを引き合いに出して、それを蔑視し、自らのポジティブティを誇るというようなことがない。大自然に圧倒されて、そんなことに目が向かないからであろうか。（大自然に対峙して、小さな己を思い知り、自然から学ぶことは多いが独善的にはなり得ない）あるいは札幌農学校精神（「貴き野心」＝卑俗な野心の否定）の影響からか。
- エリート意識も気負いもない。自らの弱さ（涙まで）を曝け出している。
- 弱さを曝け出すことのできる（自然体でいられる）強さと友との信頼関係が窺われる。
- 戦時にも伝統の札幌農学校精神、自治と自由への思い（暗喩を含め）を歌い込んでいる。
- 「貴き野心の訓え」、「うるわしきまことの道」を求める求道的な歌詞も多い。
- 「迪を恵（たづ）ねて」、「迪を恵（もと）めし」、「強く正しく寮友よ生きなむ」

恵迪寮寮歌

- 「人の世の清き国」への強い憧れ、
- 寮生が求めて止まなかったもの、守ろうとしたもの。
- そこには自然の美と精神の美がある。

- 自然の美とはいうまでもなく北海道の大自然。

- そして、精神の美とは「貴き野心の訓え」「うるわしきまことの道」すなわち、
- 「自由自主独立、利他博愛、弱者の側に立つ」精神と、「Gentlemanの節操」、「私利私欲の追求や立身出世を求めめるのではなく、真理や正義、人々の向上のため、そして自身の人格の完成のためにAmbitiousであれ」という訓え。これらが寮生が持っていた、守り伝えてきた矜持であった。

いかに護り伝えるか

- 戦時の弾圧や大学側の姑息な自治縮小の画策に抗って必死で守り抜いてきた自治と札幌農学校精神をいかに後進に伝えて行くか
- 寮歌に限ったことではないが、寮歌を通して感じられる近年の自治意識の低迷と札幌農学校精神の希薄化。これらは失われていい精神、思想なのか？
- 個人がバラバラな集団住宅には歌がない。
- 人の和するところに共感が生まれ、歌が生まれる。
- 自治が生まれる。
- 自治意識の低迷は寮歌の自然消滅にも繋がる。自治と寮歌は表裏一体である。

